

mkdir コマンド

- **読み方**：メイクディレクトリ
- **意味**：make directory の略
- **用途**：新しくディレクトリ（フォルダ）を作成するためのコマンド

利用環境

LinuxやmacOSのターミナル、WSL、Git Bashなど

基本操作

1. ディレクトリを作成

```
mkdir ディレクトリ名
```

- **確認コマンド**：ディレクトリができたか確認（詳細付き）（ls コマンド）

```
ls -l
```

- **実行結果の例**：dで始まっているのでディレクトリ

```
drwxr-xr-x 2 user user 4096 9月 8 12:00 ディレクトリ名
```

2. 複数ディレクトリを同時に作成

```
mkdir ディレクトリa ディレクトリb ディレクトリc
```

- **確認コマンド**：ディレクトリができたか確認（詳細付き）（ls コマンド）

```
ls -l
```

- **実行結果の例**

```
drwxr-xr-x 2 user user 4096 9月 8 12:01 ディレクトリa drwxr-xr-x 2 user user 4096 9月 8 12:01 ディレクトリb drwxr-xr-x 2 user user 4096 9月 8 12:01 ディレクトリc
```

よく使うオプション

1. -p (parents)：親ディレクトリもまとめて作成する

- 指定した階層の中で存在しないディレクトリがあれば、自動的に順番に作成する
- すでに存在する場合もエラーにならない

今いる場所に3階層のディレクトリを作成

```
mkdir -p ディレクトリa/ディレクトリb/ディレクトリc
```

- 確認コマンド：階層ごとに再帰的に確認（ls コマンド）

```
ls -R ディレクトリa
```

- 実行結果の例

```
ディレクトリa: ディレクトリb  
ディレクトリa/ディレクトリb: ディレクトリc  
ディレクトリa/ディレクトリb/ディレクトリc:
```

2. -m (mode) : ディレクトリ作成時に パーミッション（アクセス権）を指定する

- 通常はumask コマンドに従ってパーミッションが決まるが、-mを指定すると上書きできる
- chmod コマンド を後で実行する代わりに、一発で設定可能

新しいディレクトリに、755（所有者は全部OK、他人は閲覧と実行のみ）の権限を付与する

```
mkdir -m 755 ディレクトリ名
```

- 確認コマンド：そのディレクトリのパーミッション確認（ls コマンド）

```
ls -ld ディレクトリ名
```

- 実行結果の例

```
drwxr-xr-x 2 user user 4096 9月 8 12:05 ディレクトリ名
```

その他オプション

1. -v (verbose) : 作成処理を標準出力に表示する

- 「このディレクトリを作成しました」というログが表示される
- スクリプト実行時に進捗を確認するのに便利

```
mkdir -v ディレクトリ名
```

- 実行結果の例

```
mkdir: ディレクトリ 'ディレクトリ名' を作成しました
```

2. --help : mkdirコマンドのヘルプを表示

- どのオプションが使えるか確認できる

```
mkdir -help
```

以上